

# 芸術科（音楽Ⅰ）学習指導案

群馬県立高崎東高等学校

日時：平成28年 12月7日（水）第2校時

場所：音楽室（北校舎3階）

実施クラス：1年4組 40名

（男子18名 女子22名）

指導者：教諭 稲毛 信哉

## 1 題材名 「合唱 ～響き合う喜びを感じよう～」

○教材：「夢みたものは」（作詞：立原道造 作曲：木下牧子）

「あなたへ ～旅立ちに寄せるメッセージ～」（作詞・作曲：筒井雅子）

補助教材：ワークシート

○学習指導要領の内容における位置づけ

本題材は、学習指導要領芸術科「音楽Ⅰ」の「A表現」より

### （1）歌唱

ア 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもって歌うこと。

ウ 様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。

エ 音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受して歌うこと。

を指導するものである。

## 2 題材の目標

- （1） 主体的・協働的に音楽創りに取り組み、音楽のとらえ方、考え方を深化させる創造的な活動を行う。
- （2） 音楽を形づくっている要素を知覚し、響き合う声を感じながら、働きが生み出す特質や雰囲気などを感受する力を育成する。

## 3 題材設定の考察

### （1）題材設定の理由

合唱は、生徒達にとって非常に親しみやすい題材である。多くの中学校では、合唱は授業として取り組むだけでなく、合唱コンクールを開催し楽曲を創り上げる過程を通して、クラスが一つに団結する「生徒指導的役割」も大きく担っている。またその過程を通して創り上げた楽曲を歌い上げる達成感から、生徒達の多くは合唱に対する抵抗感はあまりなく、むしろ「よき思い出」として残っている。

今回、1学年のより深い団結を目指すことを目的として、学年主任より合唱コンクール開催の提案をいただいた。各声部毎に歌い方を工夫することはもちろんであるが、他の声部と関わりや響き合う愉しさを肌で感じる事ができたとき、音楽をより多角的に捉え、音を味わう喜びへと繋がっていくのではないかと。また、前述したように、音楽を創り上げる過程を通して、幅広いものの見方や考え方を通して人間関係の構築へとつながり、生徒達の今後の学校生活が、より主体的な充実した日々になることを願っている。

## (2) 生徒の実態

### (ア) 関心・意欲・態度

学校全体として穏やかで物静かな生徒が多いのが特徴である。このクラスにおいても同様に、音楽の授業が好きな生徒は比較的多いが、自分なりの想いや考えを持っていてもなかなか自分から感情をストレートに「表現」することを遠慮してしまうことが多い。言われたことはしっかりと行動する雰囲気はあるので、指導者の言葉の投げ方次第で、生徒の持っている感性を引き出し、活動の幅が広がる可能性を持っている。

### (イ) 音楽表現の創意工夫

声を出すことに自信を持つようになるまでに時間がかかる生徒が多い。自信を持つと、歌詞の雰囲気などから表現する工夫はよく見られる。また、耳で聞いたものをすぐにアウトプットできる能力は非常に高く、読譜は苦手だが、ガイドとなる音を提示することにより自ら進んで練習することができる。

### (ウ) 音楽表現の技能

音楽を形作っている要素の中でも、歌詞やメロディーラインの美しさなど、音楽の「横の流れ」に関する意識はもっていて、工夫して表現する力を持っているが、音楽の縦の響き「和声感」を感じて合わせる感覚はまだあまりない。

## (3) 教材選択の理由

「夢みたものは」は、本校の校歌を手がけた作曲家、木下牧子氏の作曲である。本校で使用している教科書ではないが、音楽Ⅰの教科書にも掲載されている無伴奏の楽曲で、声の美しさを十分に味わうことのできる作品であることから、今回合唱コンクールの課題曲として設定した。

また、今回の授業で扱う「あなたへ」は、このクラスの生徒達が合唱コンクールの自由曲として自分たちで選曲した。冒頭のユニゾンから始まる親しみやすいメロディーラインや、卒業を連想させるような歌詞の言葉から、生徒達にとって取り組みやすい作品だと言える。また、曲の途中には、「憎しみの極み」や「戦いの果て」など、人が生きていく中での迷いや葛藤、自暴自棄、そして、それらを乗り越えた上での人として大切な「やさしさ」が描かれている歌詞がある。中学校で歌唱したことのある生徒達でも、また違った表現で歌唱することができるであろう。

なお、自由曲の選定基準は特に定めていない。中学校時代に歌唱した楽曲や、親しみのある歌謡曲からの編曲による合唱作品も可とし、クラスの合唱委員会を中心にクラス毎に選曲を行った。

## (4) 題材の系統と他教材との関連

入学後すぐにアンケートをとったところ、楽譜が読める生徒は全体の20パーセント、楽譜が書ける生徒は10パーセント程度であった。1学期に音符・休符についての理解を深め、2学期にはリズムを体験的に感じる事ができるドラムを行ったところ、とてもよく取り組んだ。その後のプリント学習などを通して、それらの理解度が増していることを感じ、生徒の楽譜に対する抵抗感も少なくなっていることが窺える。今回、合唱を聴覚的な感覚だけでなく、視覚的な部分からも含め楽曲の構成や音楽の表現を工夫する視点を見出せるようにしたい。また、今後は器楽（ギター）を行う予定だが、今回感じた和音の響きをコ

ードに発展させ、音楽の構成する要素をより幅広く知覚し、音楽を味わう楽しみを深めていきたい。

#### 4 題材の評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
<p>① 「夢みたものは」の曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心を持ち、イメージを持って歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>② 「あなたへ」の曲想と歌詞の内容や楽曲の背景との関わり、曲想を生み出している音楽的な特徴に関心を持ち、イメージを持って歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>① 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、曲想と歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図を持っている。</p> <p>② 音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気などを感受しながら、小人数でのアンサンブル形態やクラス全体での合唱など、それぞれの形態による音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて表現意図を持っている。</p>	<p>① 曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて感じ取り、イメージを持って音楽表現をするために必要な発声、発音、呼吸法、読譜等の歌唱の技能を身につけ、創造的に表している。</p> <p>② 小人数でのアンサンブル形態やクラス全体での合唱など、それぞれの形態による歌唱の特長を生かした音楽表現をするために必要な歌唱の技能を身につけ、創造的に表している。</p>

#### 5 指導と評価の計画(10時間)

時	◆ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
2	<p>◆ 「夢みたものは」の曲想と歌詞の内容、楽曲の関わりなどに関心を持つ。</p> <p>・ 「夢みたものは」のパート別練習を通して、曲想、歌詞、音楽的な特徴に関心を持ち、イメージを持って歌唱する。</p> <p>・ 自信を持って歌えるようにグループを細分化して、アンサンブル練習を行う。</p>	<p>《音楽への関心・意欲・態度①》</p> <p>《音楽表現の創意工夫①》</p> <p>＜観察・ワークシート＞</p>
2	<p>◆ 「夢みたものは」の音楽を形作っている要素（リズム、速度、旋律、強弱）を知覚し、それらの働きを感受する。</p> <p>・ 「夢みたものは」の合唱練習を通して、音楽を形作っている要素を知覚し、それらを活かして音楽をどのように創り上げるか考える。</p> <p>・ 自信を持って歌えるようにグループを細分化して、アンサンブル（前回とは別グループで）練習を行う。</p>	<p>《音楽表現の創意工夫②》</p> <p>《音楽表現の技能①》</p> <p>＜演奏・観察・ワークシート＞</p>
1	<p>◆ クラスとして目指す表現や自己の表現意図を意識して「夢みたものは」を合唱する。</p> <p>・ 「夢みたものは」の表現について、感じたことを楽譜に書き込むとともに、それを表現しようとするために</p>	<p>《音楽表現の技能②》</p> <p>＜演奏・観察・ワークシート＞</p>

	必要な技能について考え、工夫して歌唱する。	
時	◆ねらい・学習活動	評価規準・評価方法
2	◆「あなたへ」の曲想と歌詞の内容、楽曲の関わりなどに関心を持つ。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたへ」のパート別練習を通して、曲想、歌詞、音楽的な特徴に関心を持ち、イメージを持って歌唱する。</li> <li>・自信を持って歌えるようにグループを細分化して、アンサンブル練習を行う。</li> </ul>	≪音楽への関心・意欲・態度②≫ ≪音楽表現の創意工夫①≫ <観察・ワークシート>
2	◆「あなたへ」の音楽を形作っている要素（リズム、速度、旋律、強弱、和音）を知覚し、それらの働きを感受する。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたへ」の合唱練習を通して、音楽を形作っている要素を知覚し、それらを活かして音楽をどのように創り上げるか考える。（指揮者・伴奏者との関わりや、合わせ方について考える。）</li> <li>・自信を持って歌えるようにグループを細分化して、アンサンブル（前回とは別グループで）練習を行う。</li> </ul>	≪音楽表現の創意工夫②≫ ≪音楽表現の技能①≫ <演奏・観察・ワークシート>
1	◆クラスとして目指す表現や自己の表現意図を意識して「あなたへ」を合唱する。	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「あなたへ」の表現について、感じたことを楽譜に書き込むとともに、それを表現しようとするために必要な技能について考え、工夫して歌唱する。</li> </ul>	≪音楽表現の技能②≫ <演奏・観察・ワークシート>

## 6 指導方針

歌唱する楽しみは、「曲想と歌詞の内容、またそれらを形作っている要素」を十分に感受し踏まえた上で、自分なりに思いを描き、工夫して表現することであると感じる。また、合唱においては、それらが幾重にも重なり響き合うことにより、より表現の幅が広がり深みのある音楽が創り出されることではないだろうか。そのためにも、本題材の全時間帯を通して「歌唱すること＝声を出すこと」という作業的な活動にならないように留意し、音が重なり合ったときの響きを味わうことにより、一人だと感じることでできない合唱の喜びを感じられるようにしたそのためにも、音取りの段階から曲想や歌詞の内容について意識を持てるような言葉の投げかけを行うことと、少人数でのグループワーク（アンサンブル練習）を積極的に取り入れ、多声部との関わりを意識することで、生徒自らが主体的・協働的な活動となるように支援したい。また、授業時間内での音取りが困難な生徒のために、ガイドとなる音源を作成し、自主的に練習できる環境を構築し、個人での練習を支援する。

## 7 本時の展開（本時は8時間目）

### （1）本時の目標

○楽曲を構成する要素を知覚し、音楽の表現意図を持って工夫する。

○ユニゾンと和音の響きの違いを感受し、各声部ごとの役割を考える。

(2) 本時の指導と評価の計画

	時間	○「学習のねらい」 ・「活動内容」	・指導上の配慮事項 ◆学習活動における具体的評価規準【評価方法】 ◎A と判断する場合のキーワード △C と判断させる生徒への支援・働きかけ
導入	10分	○授業に対する意識が向上するような環境を創り出す。 ・あいさつ ・点呼 ・歌唱「校歌」 ・合唱「夢みたものは」	・元気に挨拶し、授業への意識の切り替えを行う。 ・大きな声で点呼を行い、生徒の表情を観察する。 ・校歌の歌唱時に机間巡視し、表情を観察する。 ・しっかり呼吸するように働きかける。
展開	30分	○本日の具体的な取り組み内容を説明し、表現について考える姿勢をつくる。 ・歌唱「あなたへ」 ・ユニゾンとハーモニーについての説明 ・グループに分かれて、和音の構成音を探す。 ・少人数でのグループ練習・発表。 ・録音（全員で合唱）	・歌唱前に、前回までの練習で出た課題や内容を投げかけ、表現の工夫を促す。 ◆イ-②【観察】 ◎和音の構成音について主体的に見つけ出して理解し響きを意識しながら歌唱することができる。 △楽譜に書かれている音符の読み方を支援し、構成音を見つけられるようにする。 ◆ウ-①【演奏】 ◎自分の声部だけでなく、他の声部と合わせることで響き合うハーモニーを意識して歌唱している。 △いきなり合唱するのではなく、和音の構成音を提示して、一つずつ和音としての声の響きを確認できるようにする。 ・本時で学習した内容を確認しながら歌唱できるようにする。

<p>ま と め</p>	<p>10 分</p>	<p>○思っている表現と実際に演奏している表現の差異を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・録音の鑑賞</li> <li>・ワークシートの記入</li> <li>・次回予告</li> <li>・あいさつ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・差異だけにとどまることなく、聴いて感じたことは書き込むように促す。</li> </ul> <p>◆イ-②【ワークシート】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◎記載した内容に表現意図を持っている。</li> <li>△記入した内容に具体性が持てるように支援する。</li> </ul>
----------------------	-----------------	---	---